



No.18 保護が必要な多頭飼育ケースの事例報告 続編

第41号の対人援助学マガジンに掲載された「No.18 そうだ、猫に聞いてみよう」に書かせていただいた多頭飼育ケースの続編を書きたいと思います。飼い主さんが末期癌の為、人もねこも一緒に支援プロジェクトの基本方針とは真逆の“全頭の保護里親探し”に奔走することになったケースです。要約すると以下のような内容です。

【これまでの経緯の要約】

飼い主さんの主治医の先生から、人もねこも一緒に支援プロジェクトに「末期がんを患う患者さんが猫をたくさん飼っていらっしゃるのですが。猫のことを心配するあまり、ご自身の治療や最期を迎える準備に専念できていないので、相談に乗ってもらえないでしょうか。」という旨のメールが入りました。人もねこも一緒に支援プロジェクトでは、多頭飼育崩壊もあくまで猫たちは飼い主さんに最期までお世話をしてもらい、自分で責任取りながら立て直していくことを長期的に支援することが基本方針です。保護引取り目的の相談はお断りしています。しかしながら、先生のメールがとても優しさに溢れていたこと、飼い主さんのお家が私の家から自転車で10分の場所であったという偶然から引き受けることにしたのでした。

前回のマガジンに書かせていただいたところでは、全20匹中16匹まで保護が完了し、医療ケアを実施。多くのボランティアさんの協力を得て、保護した16匹全頭に行先が決まりました。飼い主さんはまだ在宅で通院しながら生活を続けており、室内にはオス4匹、お家周りのノラ猫さんが1匹残っている状況でした。

最期の4匹のオス。やっぱり寂しい？

飼い主さんのお家に残るのは4匹のオスのみとなりました。オスだけなので、繁殖する心配はありませんが、飼い主さんにもしものことがあった時に、一気に4匹も保護するの

は、保護場所の確保が大変なので、飼い主さんと最後まで一緒にいてもらうのは1匹か2匹の状態まで減らしたいと思っていました。ですが、最後の4匹になってから急に飼い主さんが捕獲に非協力的になってしまいました。非協力的と言っても、「捕まえようと思っている。来週には捕まえるからちょっと待っていてください。」と前向きなメールをくれるのですが、来週が再来週になり、再来週が来月になりとなかなか行動に移してくれません。「捕まえようとするけれど、抱っこすると逃げてしまってダメだ。」とメールが来た直後に飼い主さんの Facebook のアイコンが猫を肩に載せたツーショットの自撮り写真に変わった。「めっちゃ抱っこできてるやーん。」と思いながらも、やはり20匹と生活していたのに4匹にガクンと減ってさみしいんだろうな、と思い直しました。一気に4匹保護はきついですが、無理に保護しようとするのはやめることにしました。

そして、無理に保護はせかさず時々近況を聞いたり、里親に出た子たちの近況写真を見せたりする程度のかかわりで数か月が過ぎていきました。宣告された余命はとっくに過ぎていましたが、嬉しいことにまだまだお元気そうでした。

ノラ猫リカ君の緊急保護

飼い主さんのお家に家庭訪問をすると、必ず屋根の上か玄関周辺にノラ猫さんが1匹いました。飼い主さんはお家の猫たちだけでなく、周辺のノラ猫さんたちにもずっとご飯をあげていたそうです。昔はノラ猫も沢山いたそうですが、今食べに来ているのは1匹だけ。リカ君と呼んでいるそうです。



リカ君、かなり人懐っこい性格でお家の猫たちの一斉手術の時には、車に乗り込んできたりしていました（笑）。お家の中の子たちが落ち着いたら、リカ君も保護しないと一と考えていました。

しかしながら物事は自分の思い通りの順番では進んでくれないものです。なんとリカ君、飼い主さんのお家の隣の空き家の納屋に入り込み（というか納屋の屋根の欠損部分から落下した）、出られなくなって数日鳴き続け、警察と消防が出動する事態を引き起こしてくれました。最終的には、警察から連絡をもらった家主さんが納屋の鍵を開けてくれて、飼い主さんがキャリーに入れて保護したそうです。そして、飼い主さんから「空き家侵入犯確保し、今はキャリーの中。後どうしよう。」と私にメールが・・・。

5日間程閉じ込められてしまっていたそうなので、体調も心配ですし、せっかく捕獲できているのですぐに引取りに行きました。ゆっくり体調が回復するのを待ってから去勢手術などの医療ケアと人馴れ修行です。飼い主さんにはお外で甘えていましたが、保護して

1ヵ月ほどは全く心を開いてくれませんでした。少しずつ時間をかけて慣れていってもらい、保護から1ヵ月半ほどで、ようやくフレンドリーなリカ君に戻ってくれました。ウイルス検査の結果、猫エイズと呼ばれるFIVが陽性でしたが、持ち前の明るさで、理解のある素敵な里親さんから声をかけてもらえました。今では、先住猫さんと親友になり毎日楽しく暮らしています。



8月24日に緊急保護→約1ヵ月半の人馴れ期間→10月から里親募集中スタート→11月から里親さん宅でトライアルスタート→12月23日に正式譲渡。という4ヵ月スパンの保護になりました。

飼い主さんの入院

2021年3月4日に「飼い主さんが体調を崩して入院しました」と、主治医の先生から電話が入りました。緊急入院に備えて、飼い主さんから事前に預かっていた合鍵を使って室内に残されている4匹の保護に入ります。数か月前に、福祉サービスが入りお家の中の物がだいぶスッキリしていたため、捕獲作業のしやすい環境になっていて助かりました。3月6日には4匹全頭の保護が完了し、動物病院へ連れていきました。



左から、ピーコ（5歳オス）、トモ（2歳オス）、トラ（4歳オス）、ミツバ（3歳オス）。

飼い主さん以外の人間を見たことのない子たち。ピーコ以外は初めの1ヵ月は威嚇の嵐でした。約1ヵ月が経ち、ピーコとトラはだいぶ人馴れしたので、保護猫カフェに預かっていただくことになりました。これで2匹はすぐに良い里親さんに巡り会えるはず！と喜んだのも束の間。粗相を連発し、1週間で出戻りになりました……。多頭飼育崩壊のお家は、家中がトイレ状態になっているため、猫トイレ以外で粗相をしてしまう子が多くいます。ピーコとトラは保護中のケージ生活では粗相無しだったので、何か粗相をしてしまう要因があるはずです。まず考えられることとすれば、

●多頭飼育のお家出身ではあるけれど、知らない猫が苦手説。

猫だらけの家で生活していたとはいえ、身内以外の猫に会ったのは今回の保護猫カフェが初めてです。もしかすると、猫が苦手なのかもしれません。

●トイレ以外にトイレ認定してしまう物がある説。

お布団やタオル、新聞紙など特定のものをトイレだと認識してしまっている可能性もあります。

●トイレのタイプが気に入らない説。

カフェで主に使用しているトイレはシステムトイレタイプでした。猫のトイレは大きく分けて2種類。本体がザル式になっており専用砂とペットシートを使うシステムトイレ型と、水分で固まるタイプの猫砂を入れて使用するタイプの2つです。猫を飼っていない人からすると意味が分からないと思いますが、猫トイレについて力説する場ではないので飛ばします。

何が原因なのか一つずつ検証していくしかないので、一時預かりボランティアさんの協力を得て、まずはピーコを1匹だけで室内フリーで預かってもらうことにしました。その結果、一度だけカーペットで粗相してしまいましたが、その後は粗相ゼロ。トラはトモとミツバと合流させて室内フリーにしながら、砂トイレにしてみたり、システムトイレにしてみたり、あれこれ観察をしました。その結果、どうやらフカフカの猫ベットをトイレ認定してしまうことが分かりました。大きなバスタオルはOK。でもフカフカの猫ドームや、猫ベットは速攻でおトイレになってしまうようでした。トイレはシステムトイレでも砂トイレでも大丈夫でした。トイレで排泄ができなくなると、里親募集が絶望的でしたが、なんとか粗相の要因が特定できてよかったです。

4匹の保護から約1ヵ月。2021年の4月の初めに飼い主さんは永眠されました。

当初宣告されていた余命より約1年も長く生きてくださいました。そのおかげで、全頭に保護場所を確保することができ、里親さんのもとでのびのび暮らしている子たちの様子や、保護中の子たちの様子など、見ていただくことができました。猫たちのことに関しては不安なく思ってくれているといいなと思います。

保護は終わりではなく、始まり。

ネットに上がってくる多頭飼育崩壊のニュースは、ボランティアさんに全頭保護されてめでたしめでたし。と終わっているものが多くあります。保護は第三者から見れば終わりですが、ボランティアに猫にとっては始まりです。特に体調が悪い状態で保護をした子は、里親募集を始められる状態になるまでに長い長い道のりが待っています。

現在、ピーコは京都の預かりボランティアさんのお家でのびのびしながら里親さんを募集しています。↓



トラ君は、優しい里親さんのお家に正式譲渡になりました。↓



慢性化している涙と、大量の顎ニキビがなかなか治らないミツバと、まったく人馴れが進まないトモは私の家の保護猫部屋を貸し切って過ごしています。うちに来て2ヵ月くらいになりますが、やっと軟便や嘔吐が落ち着き、トモは一瞬なら触れるようになってきました。可哀想な生い立ちを前面に押し出して、行き場が無いんですと SOS を SNS で出せば

引き取るよと言ってくれる人も出てくるとは思います。でも、やはり里親さんにも保護猫を迎えて幸せになってほしいですし、脱走などの事故のリスクを下げるためにも保護主として安心して里親さんに送り出せる人馴れレベルにはもっていきたいと思っています。



おおよその経費は？

さて、今回のケースは全21匹なので、多頭飼育崩壊の中では頭数の少ない方だと言えるでしょう。人もねこも一緒に支援プロジェクトに関わっているケースの中で一番頭数の多かった78匹のケースでかかった費用は↓の通りです。下記に計上されていない高速代などを入れてもざくっと3万円程度の出費でした。このケースについて詳しく知りたい方は、対人援助学マガジン第31号のそうだ猫に聞いてみよう、を読んでください。

お金の状況

・HPにて、物品寄付（Amazon 欲しいもののリストを作成し紹介）を呼びかけた。

区分	内容	科目	詳細	金額	
費用	事業費	消耗品費	首輪用紐等	¥648	現金
費用	事業費	消耗品費	首輪用紐等	¥1,512	現金
費用	事業費	消耗品費	養生テープ	¥408	現金
費用	事業費	消耗品費	セロテープ等	¥596	現金
費用	事業費	消耗品費	ペットシート等	¥4,706	現金
費用	事業費	獣医療費	エイズ白血病検査費5頭分	¥15,000	現金
収益	その他収益	物資寄付	M様（キャットフード）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	N様（キャットフード）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	K様（キャットフード）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	匿名（'ビニールシート×5）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	匿名（'洗濯ネット×20）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	K様（洗濯ネット×54）	¥0	物資支援
収益	受取寄付金	寄付金	D様	¥6,500	現金
収益	受取寄付金	寄付金	O様（里親さん）	¥5,000	現金
支出				¥22,870	
寄付				¥11,500	

- ・一番高額な避妊去勢手術費は（公財）どうぶつ基金の事業を利用し無料で済んでいる。
- ・一斉避妊去勢手術に際して使用したハイエースのレンタル費、ガソリン代は、協力してくださったボランティアさんが負担してくださった。
- ・交通費はそれぞれ自己負担している。

多くの方がボランティアとして協力してくださったことにより、なんとか乗り切れた。

上記の経費のケースの4分の1程度の規模でしかない今回のケースですが、かかった費用は約30万円弱でした。

それでも、多方面の方々の協力のおかげと、経費の計算がめんどくさくて自腹にしまったガソリン代やフードやペットシート代などの諸費用があるで、本来の金額より安く計算されています。多頭飼育ケースを“保護”で解決するのは、時間も、お金も、人でも、すべてにおいて10倍くらい大変だなと思いました。

昨年度新規で関わるようになった多頭飼育ケースは3件。前年度からの継続を合わせて9件の多頭飼育ケースに関わっています。これまでの収支を下記の表にまとめました。小さなNPO法人なので、年度末に収支はプラスマイナス0になることが望ましいそう

です。そのため、年度末の決算の時に赤字分を自分からの寄付として計上してプラスマイナス0にします。表の下部に実際のご寄付の額がわかるように追記しました。

支出

2020.5.14	獣医療費（子猫治療）	1,672
2020.5.16	獣医療費10匹分	70,000
5.16~18	高速代	10,680
5.16~19	パーキング代	2,200
2020.5.16	獣医療費（血液検査）	14,630
2020.5.16	獣医療費（駆虫薬）	6,600
2020.5.19	新幹線	21,620
2020.5.19	静岡タクシー	4,740
2020.5.28	獣医療費（三毛避妊手術等）	17,930
2020.6.3	獣医療費（駆虫、治療）	46,046
2020.7.5	ワクチン接種証明書発行手数料	1,100
2020.8.24	獣医療費（リカ去勢手術等）	12,980
2021.3.6	獣医療費（ピーコ、去勢手術等）	14,685
2021.3.6	獣医療費（3匹、去勢手術等）	41,250
2021.6.20	ピーコトライアル高速代	2,180
2021.6.30	とらトライアル高速代	2,180
2021.7.29	ピーコトライアル中止高速代	2,180
2021.8.1	ピーコ預かりボラさん宅移動高速代	2,540
2021.8.5	とら正式譲渡高速代	2,180
		277,393

活動内容別事業報告計算書

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

単位: 円

勘定科目	ひとねこP2017	ひとねこP2018	ひとねこP2019	ひとねこP2020
事業収入	12,260	15,000	0	50,000
受取寄付	45,810	78,254	160,205	685,229
収入合計	58,070	93,254	160,205	735,229
支払報酬		15,000		
印刷製本費	2,800		5,530	
広報費	32,400			
通信費				
人件費（給与・交通）				
会議費		2,000		
消耗品費	7,870			
支払手数料			216	33,014
保険料				
図書資料費				
諸会費				
研究開発費				
交通費		14,738		89,190
雑費	15,000	61,516	154,459	220
荷造運賃				850
獣医療費				526,095
キャットフード購入費				85,860
経費合計	58,070	93,254	160,205	735,229
経常収益差額	0	0	0	0
寄付のうち、小池補填分	27,310	28,298	145,205	63,229
実質寄付金額	18,500	49,956	15,000	622,000

← 研修会などの講師費

← 今までは獣医療費は雑費扱いでしたが、額が大きくなってきたので、項目を追加しました。

← 年度末に不足分を自分で寄付して収支をプラスマイナスゼロにします。

← つまりこれが本当の寄付額

2020 年度でご寄付の額が跳ね上がっているのは、人もねこも一緒に支援プロジェクトの活動をキャストというニュース番組で3回も特集をしてくださったことが大きな要因です。その後、テレメンタリー21 というドキュメンタリー番組でもキャストの放送をまとめたものが放送になり、大きな反響をいただきました。これまで寄付を集める努力を全くしていなかったため、2019 年のご寄付は総額 15,000 円で、145,000 円ほど自腹補填というお財布事情だったにもかかわらず、2020 年は 622,000 円ものご寄付をいただくことができました。そのおかげで、手術の際に全頭にワクチンをしてあげることができました。また、4 年前から関わっている多頭飼育のお家の猫さんの体調不良の際に病院の診察を受けさせてあげることもできました。ご寄付を送ってくださった皆様に感謝です。また、何日も密着して丁寧に取材してくださったディレクターさんに感謝です。

このマガジンで紹介している保護が必要になったケースの動画は↓のタイトルで YouTube 検索していただくと視聴することができます。





2年で50匹!? 壮絶! 異常繁殖による「多頭飼育崩壊」の現場 猫たちと飼い主を支える救いの手
41万 回視聴・10 か月前
ABCテレビニュース
ペットの不妊手術などを行わず、異常繁殖させてしまい飼育することが困難になってしまう、いわゆる「多頭飼育崩壊」。猫たちをそして、...



【多頭飼育崩壊】ネコたちと飼い主を救う女性の戦い 背景に「貧困」「高齢化」「社会的孤立」など複数の要因
1.8万 回視聴・2 か月前
ABCテレビニュース
ペットの不妊手術などを行わず異常繁殖させてしまい、飼育が困難になってしまう「多頭飼育崩壊」。鳴き声による騒音、悪臭など、近隣...



多頭飼育崩壊 〜いまそこに迫る危機〜 【テレメンタリー2021】【ABC朝日放送テレビ】ナレーター：小野大輔
4.2万 回視聴・1 か月前
ANNnewsCH
ペットの不妊手術などを行わず異常繁殖させてしまい、飼育が困難になってしまう「多頭飼育崩壊」。鳴き声による騒音、悪臭など、近隣...

おわり



小池英梨子

活動：NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク

「人もねこも一緒に支援プロジェクト」 プロジェクト代表

仕事：猫専門のお手伝い屋さん「ねこから目線。」として開業。